

令和7年度 学校評価アンケート結果 (下半期)

【総合判定】 A: 肯定率の平均が90%以上
 B: 肯定率の平均が60%以上90%未満
 C: 肯定率の平均が60%未満

※ 肯定率とは、評定(%)の評
 定4と評定3の合計値です。

【評定】 4:とても思う(あてはまる)
 3:やや思う(あてはまる)
 2:あまり思わない(あてはまらない)
 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市評価項目	項目	番号	対象	設問	総合判定	肯定率	評定(%)				評定平均	概要・課題	◆改善策		
							4	3	2	1					
学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	確かな学力の定着と向上	1	保護者	学校は、よく分かる授業を行い、基礎的・基本的な学力とともに考える力を身に付けてくれている。	A	95%	46%	49%	5%	0%	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 児童の4(とても思う)の数値が高い。しかし6%の児童が授業が分からないと回答している。 保護者、教職員ともに肯定的な意見ではあるが、3(やや思う)の回答がもつと高い数値である。授業全体の質の向上と家庭学習を通して、保護者へも学習状況について知ってもらう必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆単元計画や年間計画の見直しを図り、より分かりやすい授業づくりをしていく。また、エイリスやタブドリ等の学習教材を積極的に活用し、個に応じた学習を行っていくことで、学習への理解度を高めていく。 ◆学年主任を中心として、学年部で教材研究を行ったり、より効果的な「あいあいタイム」を研究したりしていくことで、教師自身も自信をもって学習指導をする。 		
			教職員	授業では、めあての提示や振り返りを行い、一人一人によく分かる学習指導を行っている。		100%	33%	67%	0%	0%	3.3				
			児童	あなたは、授業の内容がよく分かりますか。		94%	57%	37%	5%	1%	3.5				
		2	保護者	0	A	89%	33%	56%	11%	0%	3.2				
			教職員	授業では、対話や学び合いを日常化し、主体性や自ら考える力を高めようとしている。		95%	64%	31%	5%	0%	3.6				
			児童	あなたは、進んで互いの考えを伝え合ったり聴き合ったりして、友達と学び合いながら学習に取り組んでいますか。											
学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	3	保護者	学校は、タブレット端末とノートやプリント等をうまく活用して、児童の興味を引き出している。	A	94%	46%	48%	5%	1%	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 児童、教職員、保護者ともに肯定的な回答が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆引き続き、デジタルとアナログのベストミックスを図りながら、個別最適な学習機会を保障できるようにしていくために、デジタル化することで「効果的に学習できた」または「できそうだ」と感じられた学習方法を年間指導計画に朱書きするとともに、ロイロノートの資料箱に教材を蓄積し、次年度でも活用または改善を図れるようにする。 			
		教職員	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。		94%	44%	50%	5%	0%	3.4					
		児童	あなたは、様々な活動やタブレット端末の活用などを通して、よく分かり楽しい学習ができましたか。		96%	76%	20%	3%	1%	3.7					
学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	4	保護者	お子さんは、自ら家庭学習や読書に取り組んでいる。	B	66%	29%	37%	28%	6%	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な取り組みをあまり感じられていないという保護者が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆読書については、朝学習の読書を継続するとともに、EILSのみきゅん通帳を活用をより一層図り、図書委員会の活動とも連携させながら読書がより身近になる習慣を確保する。また、家庭への本の持ち帰りについても児童に声掛けをする。 ◆家庭に読書や家庭学習の取組を発信できるように、学年だよりで取組の様子を紹介したり、自主学習の例を示したりするなどして児童、保護者、教職員が一体となって取組を進められるようにする。 			
		教職員	学校は、学力調査や評価テスト等の結果に基づき、個人や学級の課題を把握し、指導の改善を図っている。		100%	39%	61%	0%	0%	3.4					
		児童	あなたは、進んで家庭学習や読書に取り組んでいますか。		87%	52%	35%	10%	3%	3.4					
		5	保護者	お子さんは、自ら体を動かし、体力を高めようとしている。	B	79%	48%	31%	18%	3%			3.2	<ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的な割合は高い。 保護者は全体的には肯定しているが、児童によって差がある。 全体としては体力向上に向けて取り組んでいるが、運動が苦手・消極的な児童が一定数存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学期ごとに「なわとび強化週間」を設定し、なわとび検定を奨励する。 ◆今年度から、家庭でできる運動の例を家庭学習カードと共に配付するとともに、家庭学習カードに家での運動を記録できるように改善した。これらを今一度、学級担任に周知し、家庭と連携して体力を高めることができるようにする。
			教職員	学校は、新体力テスト等の結果を踏まえ、体育科や縦割り班活動などで、体力及び身体機能の向上を図っている。		100%	21%	79%	0%	0%			3.2		
			児童	あなたは、進んで体を動かし、体力を高めようとしていますか。		88%	67%	21%	10%	2%			3.5		
学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	6	保護者	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	97%	60%	37%	3%	0%	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に高い水準で、肯定的な数値が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度も地域の方に積極的にお手伝いに来てもらい、低学年の生活科や総合的な学習の時間、6年のキャリア教育等に携わっていただいた。来年度も計画的に地域の方との関わりを大切にしながら、教育活動を行っていく。窪田のよさ・地域への積極的参加に目を向ける地域学習をこれからも推進していくためにコミュニティ・スクールとの連携を図る。 			
		教職員	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。		95%	47%	48%	5%	0%	3.4					
		児童	あなたは、「窪田の地域」を大切に思っていますか。		97%	82%	15%	3%	0%	3.8					

【総合判定】 A: 肯定率の平均が90%以上
 B: 肯定率の平均が60%以上90%未満
 C: 肯定率の平均が60%未満

※ 肯定率とは、評定(%)の評
 定4と評定3の合計値です。

【評定】 4:とても思う(あてはまる)
 3:やや思う(あてはまる)
 2:あまり思わない(あてはまらない)
 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市評価項目	項目	番号	対象	設問	総合判定	評定(%)					評定平均	概要・課題	◆改善策		
						肯定率	4	3	2	1					
学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	豊かな心の育成	7	保護者	学校は、いじめ・不登校等に対し、保護者の相談に真摯に対応し、問題の解決に努力している。	A	88%	44%	44%	10%	2%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 概ね肯定的な評価ではあるが、保護者の1割程度が肯定的ではない評価をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳科では、45分間の授業の中で、早めに教材から離れ「自分事として考え、生活を見つめ直す時間」を意識して作り、生活につなげていく授業づくりに心掛ける。本校の重点内容項目「善悪の判断、自立、自由と責任」「友情、信頼」の教材については、学年で事前研究するなどして特に重視して取り組む。ワークシートやタブレットなどに、自分の考えや思いを表出したものを記録として残し、振り返ることができるようにする。また、学年便り等でも、授業について紹介するなどして、家庭での理解や関わりを促す。 ◆教師は、全ての窪田っ子が一人の人間として大切にされているという実感を持つとともに他を尊重しようとする心や態度が身に付けられるよう、全ての教育活動において人権尊重の精神に基づいた教育を心掛ける。そのために、児童の呼び方はさん付け、掲示の朱書き、いじめや差別の芽を見逃さない、安心して自分を出せる学級づくり、役立っていると感じられる係・委員会活動にする。 ◆アンケートやジブンミカタプログラムを活用するとともに、児童の様子の変化について気になることは学年部で共有して対応していく。 		
			教職員	学校は、いじめや差別を許さない意識や、正しいと思うことを勇気を出して行う児童を育てている。		90%	65%	25%	5%	0%	3.5				
			児童	あなたは、学校や学級で安心して過ごさせていますか。		94%	71%	23%	5%	1%	3.6				
		9	保護者	0											
			教職員	0											
			児童	あなたはいじめや差別を許さない気持ちを持ち、正しいことを進んで行っていますか。	97%	73%	24%	2%	1%	3.7					
学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	9	保護者	お子さんは、安心して学校に通い、楽しく学校生活を送っている。	A	95%	63%	32%	5%	0%	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 児童、保護者の肯定率は高い。 教職員のとても思うが7月より減少し、成果が実感しにくくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆窪田っ子よい子のやくそく、長期休業中のくらし、月目標の見直しをすることで、よりよい学校をつくっていかうとする意識や態度を育てていく。 ◆決まった内容をHPに掲載することで、家庭や地域とも連携して指導を行っていく。 ◆帰宅時間の切り替わりのタイミングに生徒指導主事がtetoruで周知する。 			
		教職員	学校は、児童と共に決まりや約束などの見直しを行い、自らよりよい学校をつくっていかうとする意識や態度を育てている。		95%	50%	45%	5%	0%	3.5					
		児童	あなたは、決まりや約束を守って、よりよい学校や学級になるよう頑張っていますか。		97%	68%	29%	3%	0%	3.7					
学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	キャリア教育	10	保護者	お子さんは、夢やめあてをもち、その実現に向けて元気に生活している。	A	85%	42%	43%	15%	0%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 概ね肯定的であった。しかし、保護者と教職員・児童間で差が大きく見られる。また、児童が夢やめあてを持って頑張ろうとする前向きな姿や学校としての取組が十分に伝わっていないと考える保護者も一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教職員自身がキャリア教育とは係活動や当番活動、委員会活動なども含まれることを認識した上で、それらの様子をホームページ、学年便り、学級懇談会などの場を活用し、紹介する。毎学期それぞれの場面での振り返りを大切に、それらの活動がキャリア教育につながっていることを継続して発信する。 ◆6年生のキャリア教育については、引き続き様々な職業について体験できる機会を設け、そこで児童の学びを発信する。 		
			教職員	学校は、将来の夢や生き方について希望をもって考える児童を育てている。		100%	47%	53%	0%	0%	3.5				
			児童	あなたは、夢やめあてに向かって元気に活動していますか。		95%	78%	17%	4%	1%	3.7				
学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	11	保護者	学校は、交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	98%	62%	36%	2%	0%	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 概ね肯定的であった。しかし、校内でのけがが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆校内でけがが多い箇所の周知や危険な場所で遊ばないような指導を継続して行う。 ◆1年生や3年生での交通安全教室や5年生の保健の学習を活用し、定期的に交通安全の意識を高めていく。 			
		教職員	学校は、児童に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。		100%	55%	45%	0%	0%	3.6					
		児童	あなたは、自分と周りの人の命と安全を守るよう気を付けて生活できていますか。		99%	83%	16%	1%	0%	3.8					
学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	健全な体の育成	12	保護者	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」の合言葉を守った生活ができている。	A	86%	44%	42%	12%	2%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 概ね規則正しい生活ができているが、保護者と児童の否定的な割合が約15%いる。 保健室利用者の中にも、寝るのが遅かったり、寝坊して朝ごはん食べれなくて、体調不良を訴えて来室する児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学期ごとの身体計測の時間等を利用して、保健指導で規則正しい生活の必要性について、今後も指導する。 ◆保健日よりや学年日よりでの啓発を行う。 ◆体調不良で来室した児童には、規則正しい生活の大切さを指導する。 		
			教職員	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。		100%	70%	30%	0%	0%	3.7				
			児童	あなたは、「早寝・早起き・朝ごはん」の合言葉を守って生活できていますか。		84%	42%	42%	12%	4%	3.2				
		13	保護者	お子さんは、家庭でタブレットなどのインターネットに接続できる機器を正しく使っている。	A	89%	44%	45%	10%	1%	3.3			<ul style="list-style-type: none"> 概ね肯定的であった。しかし、寝る直前の電子機器使用で生活習慣が乱れている児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆寝る直前の電子機器の使用による弊害（ブルーライトの影響等）も保健日より等で周知していく。 ◆学級活動に位置付けられている情報モラルの学習等で、電子機器の望ましい使い方を指導する。また、長期休み中の電子機器の使い方のプリントで家庭への協力・啓発を図る。
			教職員	学校は、インターネット等の適切な使い方を指導し、情報モラルや望ましい生活習慣の形成に努めている。		100%	40%	60%	0%	0%	3.4				
			児童	あなたは、タブレットなどのインターネットに接続できる機器を正しく使っていますか。		97%	80%	17%	2%	1%	3.8				
学校は、換気や手指衛生などの感染症対策を行っている。	14	保護者	学校は、換気や手指衛生などの感染症対策を含む、基本的な取組を適切に行っている。	A	97%	46%	51%	3%	0%	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策は、概ね高評価であり意識できている。しかし、児童の中にはできていないと感じている者もいる。 学級閉鎖もあったため、もう少し早めの啓発が必要であった。 強制はできないが、流行時期にはもう少しマスクの徹底が必要だった。しかし、家庭の事情でマスクができない児童もいる可能性があるため、把握することも必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆感染症が流行する前から声掛けを行っていく。児童には放送や保健日よりで、教職員には終礼やミライムで、保護者には保健日よりや学年日より、学校日より等で啓発を行う。 			
		教職員	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。		100%	65%	35%	0%	0%	3.7					
		児童	あなたは、健康を守るために、しっかり手洗いやうがいなどができていますか。		95%	65%	30%	4%	1%	3.6					

【総合判定】 A: 肯定率の平均が90%以上
 B: 肯定率の平均が60%以上90%未満
 C: 肯定率の平均が60%未満

※ 肯定率とは、評定(%)の評
 定4と評定3の合計値です。

【評定】 4:とても思う(あてはまる)
 3:やや思う(あてはまる)
 2:あまり思わない(あてはまらない)
 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市評価項目	項目	番号	対象	設問	総合判定	評定(%)					評定平均	概要・課題	◆改善策						
						肯定率	4	3	2	1									
学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	特別支援教育	15	保護者	学校は、児童一人一人の特性や能力に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	90%	44%	46%	10%	0%	3.3	・おおむね肯定的な評価ではあり、保護者の肯定意見についてもどちらかといえば肯定的である。しかし、保護者の1割は肯定的でない認識を持っている。特別支援教育に対する認識か指導に対する理解かは定かではない。保護者の思いを知る必要がある。	◆ホームページや学校だより、学年だよりなどで、特別支援学級の活動の様子や、通常の学級で特別支援教育の視点に立って行っている活動の様子を紹介する頻度を高め、保護者が本校の特別支援教育についての理解を深める機会を増やす。 ◆教職員同士で特別支援教育への認識・共通理解をさらに図るために「特別支援教育だより」で啓発したり、校内研修の機会を持ったりする。 ◆合理的配慮について、教職員の共通理解を図る。また、学年・学級全体で支持的風土を築くことで、本人及び周囲の児童への理解を深めていくように努める。						
			教職員	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。										100%	70%	30%	0%	0%	3.7
			児童	0															
学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	組織・運営	16	保護者	学校は、相談事等に対し、一致協力して素早く対応してくれている。	A	93%	51%	42%	6%	1%	3.4	・教職員、保護者共に概ね肯定的な評価となっているが、保護者の7%は肯定的でないと捉えている方がおられることを学校は真摯に受け止める必要がある。	◆来年度も相談事には全校で素早く対応できるような組織づくりを充実させるとともに、学年部の連携を今以上に図る。また、生徒指導部会が機能的に活動できるよう体制を見直す。 ◆特に、いじめ等の困り事には、即日対応できるよう、教頭が対応者を素早く決定し、様々な機関と連携を図るようにする。併せて教職員の研修もしっかりと行う。						
			教職員	学校は、管理職や学年主任等を中心として、組織的かつ迅速な対応を行っている。										95%	60%	35%	5%	0%	3.6
			児童	0															
学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	研修	17	保護者	学校は、様々な今日的な課題(情報モラル・SDGsなど)を含む教育活動を工夫して実施している。	A	95%	45%	50%	5%	0%	3.4	・肯定的な数値でまとまっているが、3(やや思う)の数値が高い。	◆長期休み等を活動して、教材研究や授業づくりの研修を行い、分かる授業づくりや個別最適な支援を行える教職員になるよう取り組んでいく。 ◆今年度もPTAの家庭教育部と連携を図り、児童と保護者を対象に講演会を行ったが、保護者の参加率は若干少なかった。早い時期から計画を立て、保護者呼び掛けることで、共に学べる環境を整えていく。						
			教職員	学校は、子供たち一人一人がよく分かる授業づくりや個別最適な支援に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。										100%	50%	50%	0%	0%	3.5
			児童	0															
学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	保護者・地域との連携・情報	18	保護者	学校は、教育活動をより充実させるために、地域や保護者と連携・協力している。	A	96%	55%	41%	4%	0%	3.5	・おおむね肯定的な数値となっている。	◆学年によって、情報発信の頻度に差があるため、学年の行事だけでなく、日頃の様子についてもホームページ等で積極的な発信を進めていく。						
			教職員	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。										95%	65%	30%	5%	0%	3.6
			児童	0															
学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	保護者・地域との連携・情報	19	保護者	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、教育活動の様子をよく伝えている。	A	96%	58%	38%	4%	0%	3.5								
			教職員	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等を通して、積極的に情報を発信している。										100%	60%	40%	0%	0%	3.6
			児童	0															
学校は、言語活動の充実及び展掲の工夫等の環境整備に努めている。	教育環境整備	20	保護者	学校は、保護者などの来訪者にも子供の活動の様子がよく分かる展掲に努めていると感じる。	A	97%	57%	40%	3%	0%	3.5	・概ね肯定的な評価である。来訪者が最初に目にする正面玄関の掲示物は、季節を感じられる掲示物だったり、児童参加型のハートカードがあったりして、足を止めて見てもらった。また、その横に6年生の埴輪があった時期は、他学年の活動内容も知ることができてよかった。造形大会全校鑑賞週間を利用して異学年の鑑賞ができた。各学年(ペア学年)での鑑賞会も、言語活動の充実を図ることができた。	◆各学年で展示しているくぼたっ子ギャラリーの作品を短い期間で入れ替え、来訪者にたくさんの作品を見てもらう。 ◆各教室や学年フロアの掲示は、今後も動く掲示物を意識して、環境整備に努める。 ◆3年生入り口の安全マップの入れ替えをする。その隣に委員会の掲示板を作るなど、学校のことを更に知ってもらう工夫をする。						
			教職員	学校は、言語活動の充実及び展掲の工夫等の環境整備に努めている。										100%	50%	50%	0%	0%	3.5
			児童	あなたは、学校や学級の掲示が、見て楽しくよく分かるものになっていると感じますか。(6年・11月のみ)										96%	72%	24%	3%	1%	3.7
学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	幼保小中連携	21	保護者	学校は、幼稚園・保育園、中学校とよく連携し、入学や進学に向けての適切な説明・対応を行っている。	A	94%	48%	46%	6%	0%	3.4	・概ね肯定的な評価である。 ・架け橋プログラムにより、幼保小の計画を立てることができ、1学期には参観し合ったり、2学期には秋の交流会をもったりするなど連携が図れた。 ・11月に久米中学校のオープンスクールがあり、中学校への期待感を高めた児童が多くいた。	◆入学してくる1年生の出身園が、毎年20園を超えるため、全部の園と連携を図ることは難しいが、架け橋プログラムの連携園、近隣の園については、参観日の案内をする。その際、入学祝詞のお礼状に翌年の4月の参観日の案内を入れるようにする。 ◆オープンスクール等中学校との連携を引き続き図るとともに、進学に向けた情報発信を行っていく。						
			教職員	学校は、各園、小中学校との交流や連携を通して、小1プロブレムや中1ギャップの解決を図っている。										100%	74%	26%	0%	0%	3.7
			児童	あなたは、オープンスクールなどを通して、中学校進学への意欲や希望が高まりましたか。(6年・11月のみ)										85%	58%	27%	15%	0%	3.4
学校は、教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。	幼保小中連携	22	保護者	学校は、幼稚園・保育園・中学校等とよく連携し、子供理解に努め、幼少中のつながりのある学習指導を行っている。	A	93%	45%	48%	7%	0%	3.4								
			教職員	学校は、各園、小中学校の保育・授業参観等を通して、教職員同士の相互理解を図り、指導の連続性や課題の共有に努めている。										94%	50%	44%	6%	0%	3.4
			児童	0															